

# 東京オリンピック・パラリンピック ボート競技等下諏訪町事前合宿取材記

40周年記念事業実行委員会記念誌部会 宮坂 一 則

## イタリア、アルゼンチン

### 五輪選手 諏訪湖で合宿

諏訪湖にある長野県唯一の漕艇場「下諏訪ローイングパーク」で7月、一年遅れの「2020東京オリンピック」のボートとカヌー競技に出場するアルゼンチン選手団とボート競技のイタリアの選手団、同パラリンピック出場の日本選手団による事前合宿があった。選手へのPCR検査や外出エリアの限定、消毒、住民との接触を避けるなど新型コロナウイルスまん延防止対策を徹底した厳しい規制の中での事前合宿だったが、大会使用艇や国旗がプリントされたオールが湖面を賑わし、軽い漕ぎや力漕を繰り返して入念に調整する選手を町民やボート関係者らが湖岸から熱い視線を送り、一流選手のパフォーマンスを間近で楽しんだ。

本番でイタリアは金1、銅2などボート強豪国にふさわしい大活躍。町民からは「諏訪湖での事前合宿が役立ったとしたら大変うれしい」などと喜びの声が上がっていた。

下諏訪町に今年4月上旬、アルゼンチンからボートとカヌー、イタリアからボートの事前合宿受け入れの打診があった。新型コロナウイルスの影響を受けて東京オリンピックの外国選手事前合宿受け入れ中止の動きが全国で相次ぐ中、町も慎重に検討を進めた。海外の選手団がワクチンを接種して来日することや感染対策として滞在中の行動制限に協力することが得られたなどから、受け入れ方針を決断。宮坂徹町長が6月の定例記者会見で明らかにした。宮坂町長は「判断に苦慮したが総合的に勘案し判断した。ボートの町として下諏訪をアピールしていきたい」とした。事前合宿誘致の目玉として建設した新艇庫「AQUA（アクア）未来」を含む下諏訪ローイングパーク一帯の環境整備が2020年4月に完成したことも後押しした。

事前合宿受け入れに向けて、ボートコースの整備や応援メッセージの作成など官民協働で準備が進められた。新型コロナウイルス感染対策の徹底にも万全を期した。



写真上から

○五輪での抱負を述べるイタリア選手

○アルゼンチンの女子軽量級ダブルスカル選手



## 2千㍍仮設コース設営

### きれいな諏訪湖でもてなし

事前合宿は漕艇場の1,000㍍常設コースを利用するほか、コース外側にオリンピック競技に合わせた2,000㍍の仮設コースを2レーン設置。委託業者が、重りを取り付けた直径約20㍍の球形ブイを直線になるよう等間隔に湖面に並べた。合宿終了後に撤去された。



県ボート協会と町漕艇協会は、「きれいな環境で五輪選手をおもてなししよう」と7月上旬、雨の降る中で艇庫前など漕艇場一帯の湖岸清掃を実施。景観を損なうプラスチックごみや流木などを片付け、万全態勢で選手を迎える準備を進めた。

町総務課では両国選手への応援メッセージ動画を制作した。中、高校生やボート協会関係者、下諏訪国際交流協会のメッセージなどを収録。町漕艇協会の収録では参加者がスペイン語で「アニモ（頑張れ）アルヘンティーナ」、イタリア語で「フォルツァ（頑張れ）イッターリア」などと笑顔で元気よく呼びかけながら拳を突き上げていた。久保田和美副会長は「町が誇るローイングパークで練習して良い成績を収めてほしい」とエールを送っていた。町ではDVDにして合宿滞在中の選手に贈った。



受け入れ側の準備が整う中、第一陣としてアルゼンチンの女子軽量級ダブルスカル選手2人と男性監督の計3人が11日未明に町内の宿泊施設に入り、18日まで合宿した。同国カヌー選手の男子2人、女子1人と各監督1人の計6人は、18日から28日まで滞在した。イタリアのボート選手は男子15人、女子11人の選手26人と監督、コーチら36人の大所帯で、諏訪市内のホテルに宿泊し13日から17日まで合宿した。

事前合宿期間中は県ボート協会役員や町職員らがコーチ艇で並走するなどして練習をサポート。水上安全も確保した。練習開始にあたり県ボート協会の木下芳樹理事長は「いよいよという気持ち。練習を見られるのはありがたい。サポート態勢を万全にしていきたい」と話していた。



写真上から

○2000㍍の仮設コース設営

○「きれいな諏訪湖が最高のおもてなし」と清掃に励む

○選手団に贈る応援メッセージの収録風景

アルゼンチンとイタリア両国のボート選手は15日午前の練習後に艇庫前で、メッセージを発信。国旗の小旗を振る住民約100人を前に、合宿を受け入れてくれた町や地元住民に感謝の気持ちを伝えながら、五輪に臨む決意を語った。

最初に会見したアルゼンチンのミルカ・クラリヘブ選手とエベリンマリセル・シルベストロ選手は「初めてのペアでの出場。すてきな諏訪湖で練習できるのは光栄。スタッフや住民の応援が感じられ感謝している」「練習の成果を出してセミファイナルまでいきたい」などと笑顔を見せながら話した。

### 「イタリア 世界一自負」

続いてイタリアの選手が会見。フランチェスコ・カッターネオ監督は「イタリアチームは世界一だと自負している。金メダル目指して練習してきた」と自信をのぞかせた。5回目の五輪出場という男子4人スカルのシモーネ・ベニエール選手は下諏訪町の印象を「とてもウエルカムな雰囲気。空気も街も湖もとてもきれい。風がなければパーフェクト」、五輪出場2回目の女子ダブルスカルのアレッサンドラ・パテーリ選手は「五輪でも応援してくれたらうれしい」と歓迎にも感謝した。会見の後、選手全員が肩を組んで円陣を作り雄叫びを上げて足で地面を踏み鳴らす試合前の必勝パフォーマンスを披露。高校生たちは「イタリアの“金色の民”だ」と笑顔で語り合っていた。イタリア語の通訳を、選手団と行動する岡谷市出身のサポートスタッフ・小野菜さん（東京）が務めた。

近所の友人と応援に訪れたという近くの70代の主婦は「両国の選手とも体格が良くてさすがです。大会では良い成績を残してほしい」と小旗を振る手に力を込めていた。



写真上から  
 ○会見するアルゼンチン女子選手  
 ○練習コースに向かうイタリア選手  
 ○雄叫びを上げて勝利を呼び込むパフォーマンスをするイタリア選手



下諏訪向陽高校漕艇部2年の男子生徒は「世界トップレベルの選手を間近に見てすごいと思うとともに自分も頑張らなければ」と自身を鼓舞していた。

16日には、イタリア選手とのオンライン交流会を非公式で開催した。宿泊先の諏訪市内のホテルと「AQUA未来」会議室をつなぎ、宮坂徹町長や下諏訪中ボート部員、下諏訪向陽高漕艇部員らが諏訪湖の印象やレースに臨む心構えなどを話題に交流。本大会での活躍に期待を寄せ「ぜひメダルを取って下さい。町民みんなで応援しています」などと激励した。



## 金1、銅2の大活躍

### 強豪国イタリア

本大会でイタリアは、男女14種目中9種目に出場。女子軽量級ダブルスカル（フェデリカ・チェザリーニ、バレンティーナ・ロディニ）で金メダルを獲得したほか、男子の同種目とかじなしフォアで銅メダル、4人スカルで男女とも入賞するなど大活躍した。



## パラローイング日本代表も事前合宿

同ローイングパークでは、東京パラリンピックボート競技「パラローイング」に出場する日本代表選手の事前合宿も7月初旬から約1か月間あった。PR1クラス女子シングルスカルとPR3クラス混合かじ付きフォアの2種目に出場する選手計6人とコーチなどのスタッフが合宿。東京オリンピックに出場するアルゼンチンとイタリアの事前合宿を受け入れた関係で、町では新型コロナウイルス感染対策として練習時間が重ならないよう日程調整した。諏訪湖畔にある運動施設「健康ステーション」と「健康フィールド」を事前合宿選手が使う関係で期間中、一般客の利用を休止とした。



### 「1秒でも早くゴール」

8月1日には、日本代表選手の壮行会が「AQUA未来」であった。町と県ボート協会、町漕艇協会の主催で、地域住民や夏休み中の中、高校ボート部員、協会関係者など約90人が国旗の小旗を振りながら活躍を願ってエールを送った。日本ボート協会パラローイング本部長の岡本悟

写真上から

○イタリア選手とのオンライン交流会の様子（いずれも下諏訪町提供）

○パラローイングシングルスカルの練習。約1か月に及んだ

さんや女子シングルスカル初出場の市川友美さんが「環境の良い場所で仕上げさせていただき感謝している」「充実した合宿ができている。皆さんへの感謝の気持ちを胸に1秒でも早くゴールできるよう全力で漕ぎたい」などと意気込みを語った。西村和幸町漕艇協会長は「活躍に期待している。悔いない漕ぎでローアウトして」と激励した。



- 右上から時計回りに
- パラ日本代表選手の壮行会（下諏訪市民新聞社提供）
- 笑顔を絶やさないアルゼンチン女子選手
- アルゼンチン選手に小旗を振り激励する高校生ら
- 出艇していくイタリアのクルーを岸辺から見守る住民
- アルゼンチンのカヌー選手を歓迎する